

A Novel minimally invasive percutaneous Surgical Treatment for early and progressive stage Lumbar Spondylolysis: the technical description and 14 initial case series

初期・進行期腰椎分離症に対する新しい最小侵襲経皮的手術の報告

1. 研究の対象

2014年10月28日～2019年4月15日まで初期・進行期腰椎分離症に対して最小侵襲分離部修復術を行った患者様

2. 研究目的・方法

腰椎分離症は疲労骨折の一つであり、若年者の腰痛の原因の一つと考えられています。コルセットとスポーツの中止による保存治療で治癒しますが、治癒に時間がかかること・再発のリスク・復帰後のパフォーマンスレベルに影響を与えることが挙げられます。特に、思春期のアスリートは早期復帰を希望する症例に多く遭遇します。今回我々は低侵襲かつ早期での骨癒合・スポーツ復帰を目指した手術方法を開発したので、手術手技とその有効性を報告します。

初期・進行期腰椎分離症に対して最小侵襲経皮的分離部修復術を行い、術後は硬性装具を装着してリハビリを開始します。体幹の前屈・回旋動作は避けるようにジョギング・スクワット・ハムストリングのコンディショニングを行ってもらいます。術後は外来で症状ならびに骨癒合を確認し、骨癒合が確認できれば硬性装具を除去し、スポーツ復帰も許可します。術後は外来にて腰痛の有無・単純X線・CTで骨癒合の評価を行います。骨癒合の評価は身体診察で腰痛の消失したこと・画像検査で分離部の再燃所見がないことを確認します。また、病期ごとに骨癒合率・骨癒合までの期間・スポーツ復帰までの期間も評価します。

また、研究期間は倫理委員会承認日～2024年12月31日です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

病歴、術前・術後単純X線写真像、術前・術後CT画像等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

高知大学医学部附属病院 整形外科/リハビリテーション部

高知県南国市岡豊町小蓮 185-1

0888-80-2387

研究責任者：

国立高知大学附属病院 整形外科/リハビリテーション部 青山直樹